

1. 題材名「9 がん患者への理解と共生」（中学校・特別活動）

2. 題材について

(1) 題材設定の理由

本題材では、がん患者への理解を深めるとともに、がん患者との共生を図ることができる生徒の育成を目ざしている。特に本時では、がん患者の手記を教材として用いることで、がん患者やその家族に対する理解、そして周囲から支え共生することの大切さに気付くよう心掛けた。そして終末では、学級における話し合い活動を踏まえて自らの行動を意思決定し、表明する機会を設定する。

(2) 報告書の内容の位置づけ

ケ がん患者への理解と共生

がん患者は増加しているが、生存率も高まり、治る人、社会に復帰する人、病気を抱えながらも自分らしく生きる人が増えてきている。そのような人たちが、社会生活を行っていく中で、がん患者への偏見をなくし、お互いに支え合い、共に暮らしていくことが大切である。

3. 指導のねらい

- ・がん患者にかかわる諸問題に関心を持ち、互いに支え合おうとすることができるようにする。
- ・社会の一員としての自覚と責任を認識し、がん患者に対する画一的な見方をなくすことができるよう、また、がん患者と共生することができるようにする。
- ・がん患者の悩みに気付き、望ましいかかわり方について理解することができるようにする。

4. 展開例

時間	学習活動	指導上の留意点(◆評価)
導入 5分	<p>1. 親のがんが、その子供の生活に及ぼす影響について予想する。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療費などがかさみ、経済的な面で苦しくなるのではないだろうか。 ・親の看病で、精神的にも肉体的にも大変になるのではないだろうか。 ・子どもが親を支えるのは難しいのではないだろうか。 	<p>○身近な人をがんで亡くした生徒がいる場合、様子を観察するなど、十分配慮する。</p> <p>○資料 P. 14 (1) を参照する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者の子供の総数は約 8 万 7 千人に上る。 ・がんを患うと様々な生活上の支障が出る。 <p>◆【関心・意欲・態度】</p> <p>がん患者に関する諸問題に関心をもつことができる。(発言)</p> <p>○がん患者やその家族を支えることの大切さの上に立ち、望ましい関わり方について考えることを確認する。</p>
	<div>目標：がん患者やその家族との望ましい関わり方について考えよう。</div>	
	<div>発問：がん患者やその家族は、周りの人たちに対してどのように接してほしいと望んでいると思いますか。</div>	
	<p>2. がん患者やその家族が望む接し方について、各自で予想し、小グループで話し合う。</p> <p>〈予想される反応〉</p>	<p>○グループを形成し、話し合い活動に取り組むよう指示する。</p>

展 開 40 分	<ul style="list-style-type: none"> ・がんのことについては、一切触れないでほしいと思っているのではないだろうか。 ・常に気に掛けてほしいと感じているのではないだろうか。 	○小グループで話合われた内容を発表するよう促す。
	3.「患者手記」を読み、がん患者やその家族が望んでいるかかわり方を理解する。 〈予想される反応〉 <ul style="list-style-type: none"> ・何でもない話をして、一緒に笑って、共に過ごすことが大切なのだと感じた。 ・ふだん通りの対応をすることが望ましいことであると気付いた。 	○資料 P. 14 (2) の「患者手記」を提示する。 ○「患者手記」を読んだ感想を数名の生徒に発表するよう促す。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; text-align: center;"> 発問：「がんになって悪いことばかりではなかった」という言葉を聞いて、あなたはどのようなことを考えましたか。 </div>	
	4.資料を読み、教師の発問を受け、自らの考えを発表する。 〈予想される反応〉 <ul style="list-style-type: none"> ・なぜそのような思いに至ったのだろうか。 ・がんはとてもつらいことで大変なのではないのだろうか。 	○資料 P. 15 の前半部を提示する。 ○数名の生徒に発表するよう促す。
	5.なぜ、「がんになって悪いことばかりではなかった」と言えたのかを考える。 〈予想される反応〉 <ul style="list-style-type: none"> ・前向きな気持ちになれる出来事があったからではないか。 ・周りが励ましてくれたからではないか。 	○数名の生徒に発表するよう促す。
	6.資料の続きを読み、がん患者の思いに共感する。 〈予想される反応〉 <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者が周囲から愛され、大切にされていると実感できるよう配慮することが必要なのだ。 ・がん患者と周囲の人が、互いに愛し、大切に思っていることが根幹となっているようだ。 ・がん患者に対し、家族や友人は実際にどのように振る舞えばよいのだろうか。 	○資料 P. 15 の後半部を提示し説明する。 ◆【知識・理解】 互いに支え合いともに暮らしていくことの大切さを理解することができる。(発言) ○もし、実際に家族や友人ががん患者になった際、どのようなかかわり方をすることが望ましいかを想起するよう促す。

	<div> <p>発問：もし、がん患者を支える家族や友人の立場になったら、どのようにかかわることが望ましいか考えよう。</p> </div>	
	<p>7.小グループを構成し、各々の意見を交し合った後、学級全体で共有する。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者とのコミュニケーションを丁寧にとり、相手の思いや考えを理解した上で対応する。 ・かえってがん患者が気をつかわぬよう、ふだん通りの振る舞いを心がけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な意見を聞くことができるよう配慮する。 ○出てきた意見を整理しつつ、自分の身の回りのがん患者をはじめ様々ながん患者との関わりについても想起することができるよう促す。
<p>まとめ 5分</p>	<p>8.学級での話し合い活動を踏まえ、7.について改めて考え、具体的に自分が行うことを、自己決定する。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族や友人の考えを丁寧に聞き、相手の思いに即した振る舞いをする。 ・家族や友人のことを察し、出来る限りの心身の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己決定したことを学級活動カードへの記入を促す。 <p>◆【思考・判断・実践】</p> <p>がん患者を支える家族や友人として、自分の行動を選択し、自己決定している。（記述）</p>
	<p>9.教師の話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小グループや学級全体での話し合い活動自体が、社会において互いを支え合う基盤となっていることを示唆する。 ○がん患者の思いは、時と場合によって変化することもあるので、そのことについても受け止めておくことが必要であることを伝える。